

(様式第 9)

平成 22 年 1 0

関東信越厚生局長 殿

開設者名 大山 喬史

東京医科歯科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 21 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	121人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	231人	304人	535人	看護補助者	1人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	7人	臨床検査技師	70人
薬剤師	26人	12人	37.7人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	人	人	人	視能訓練士	6人	その他	0人
助産師	20人	4人	22.1人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	645人	21人	659.2人	臨床工学技士	13人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	人	人	人	栄養士	0人	その他の技術員	10人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	0人	事務職員	92人
管理栄養士	3人	3人	6人	診療放射線技師	33人	その他の職員	3人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	673.8人	人	673.8人
1日当たり平均外来患者数	2,179.7人	人	2,179.7人
1日当たり平均調剤数	(外来) 295.8剤	(入院) 517.8剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	GISTのパラフィン包埋組織の遺伝子解析	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 ホルマリン固定パラフィン包埋された胃腸管間質腫瘍(GIST)のC-Kit遺伝子の突然変異を検索し、グリベックの適応と治療効果の予測を行っている。			
医療技術名	FISHによるグリオーマの染色体異常の検索	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 FISH法を用いてIP/19gの欠失をパラフィンの切片上で検索し、アストロサイトーマとオリゴデンドログリオーマの鑑別、治療効果/予後の推測を行っている。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	173人	・膿疱性乾癬	1人
・多発性硬化症	88人	・広範脊柱管狭窄症	13人
・重症筋無力症	86人	・原発性胆汁性肝硬変	24人
・全身性エリテマトーデス	339人	・重症急性膵炎	2人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	74人
・再生不良性貧血	23人	・混合性結合組織病	46人
・サルコイドーシス	163人	・原発性免疫不全症候群	72人
・筋萎縮性側索硬化症	34人	・特発性間質性肺炎	75人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	270人	・網膜色素変性症	28人
・特発性血小板減少性紫斑病	76人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	37人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	148人	・神経線維腫症	10人
・大動脈炎症候群	134人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	48人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	44人	・慢性血栓性肺高血圧症	5人
・脊髄小脳変性症	168人	・ラインゾーム病	0人
・クローン病	132人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	34人	・脊髄性筋委縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	76人	・球脊髄性筋委縮症	4人
・アミロイドーシス	6人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	39人
・後縦靭帯骨化症	73人	・肥大型心筋症	0人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	194人	・ミトコンドリア病	7人
・ウェゲナー肉芽腫症	20人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	3人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	20人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	37人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	4人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	・
・超音波骨折治療法 (四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施した場合に限る。)	・
・眼底三次元画像解析	・
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・膀胱水圧拡張術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週に5回程度、症例検討会を実施している。 (定例会は週3回。その他、随時個別に臨床部門と8回以上開催)
部 検 の 状 況	部検症例数 64例 / 部検率 15.20%

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
肝移植保存液の新規開発	工藤 篤	肝胆臓外科	1,040	補 日本学術振興会
肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発	有井 滋樹	肝胆臓・総合外科学	110500	補 厚生労働省
難治性消化器癌における転移・再発の分子診断と分子標的治療の開発	有井 滋樹	肝胆臓・総合外科学	14,040	補 日本学術振興会
癌オミックス情報解析に基づく新しい血管新生分子標的治療の開発	田中 真二	肝胆臓・総合外科学	4,550	補 日本学術振興会
重症くも膜下出血患者の予後改善を目的とした循環動態の調節方法	磯谷 栄二	救命救急センター	780	補 日本学術振興会
塞栓子検出ドブラ装置による肺塞栓症発症リスク評価法の確立	菅野 範英	血管外科	650	補 日本学術振興会
耳石欠損マウスを用いたAtp2b2遺伝子と加齢性平衡障害の解明	野口 佳裕	耳鼻咽喉科	1,300	補 日本学術振興会
難聴遺伝子GJB2と6変異による難聴発症機序の解析	伊藤 卓	耳鼻咽喉科学	1,040	補 文部科学省
難聴症例のミトコンドリア遺伝子変異の網羅的解析法確立と内耳細胞内の変異定量解析	喜多村 健	耳鼻咽喉科学	3,770	補 日本学術振興会
動脈硬化病変形成における細胞性免疫の関与とその制御による新規治療法の開発	磯部 光章	循環制御内科学	1,170	補 日本学術振興会
プロテオミクス解析手法を用いたアルドステロンの血管細胞への直接作用の解明	吉本 貴宣	内分泌・代謝内科	1,430	補 日本学術振興会
軟骨損傷に対する滑膜幹細胞浮遊液静置療法において細胞接着効率を向上させる為の検討	関矢 一郎	軟骨再生学分野	1,950	補 日本学術振興会
胎生期における疾患原因の作用と小児造血器疾患	水谷 修紀	発生発達病態学	7,150	補 日本学術振興会
イン・シリコ・ペプチド医薬の開発	平田 結喜緒	分子内分泌内科学	8,450	補 日本学術振興会
生理活性ペプチドホルモンによる摂食・代謝制御機構の解明	鈴木 紀子	分子内分泌内科学	700	補 日本学術振興会
急性肺傷害におけるI型肺胞上皮傷害の機序および重症度に関する検討	内田 篤治郎	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	3,250	補 日本学術振興会
滑膜幹細胞を用いた新しい低侵襲関節疾患治療の臨床応用の発展のための大動物研究	宗田 大	運動器外科学	2,080	補 日本学術振興会
眼特異的ヒト制御性細胞の免疫学的分子生物学的機能解析	堀江 真太郎	眼科	1,950	補 文部科学省
近視性脈絡膜新生血管の発生機序の解明、分子機構に基づいた新たな治療法の開発	林 憲吾	眼科	2,210	補 文部科学省
熱ショック蛋白による眼内炎症抑制機構の解明	高瀬 博	眼科学	1,690	補 文部科学省
角膜内皮細胞に関する免疫学的・分子生物学的機能解析	杉田 直	眼科学	1,690	補 日本学術振興会
血管内皮前駆細胞を標的とした新たな加齢黄斑変性の治療戦略	大野 京子	眼科学	1,480	補 日本学術振興会
補体活性化を中心とした加齢黄斑変性の発症機序解明と新たな治療アプローチ	大野 京子	眼科学	3,900	補 日本学術振興会
眼内自然免疫機構と機能分子に関する免疫学的・分子生物学的研究	望月 學	眼科学	3,640	補 日本学術振興会
難治性眼炎症性疾患に対する網羅的迅速診断システムの開発	望月 學	眼科学	7000	補 厚生労働省
健康危機管理における効果的な医療体制のあり方に関する研究	大友 康裕	救急災害医学	6300	補 厚生労働省
核内酵素ポリ(ADP-リボース)シンセターゼ阻害による敗血症性ショックの治療戦略	三高 千恵子	救命救急医学	1,170	補 日本学術振興会
炎症後色素沈着の機序の解明と低痕傷創傷治癒に関する基礎的研究	岡崎 睦	形成外科学	4,680	補 日本学術振興会
膵臓細胞に特異的な水チャネルの機能解析	太田 英里子	血液浄化療法部	1,391	補 日本学術振興会
WNK4キナーゼの腎臓における役割の解析	太田 哲人	血液浄化療法部	1,560	補 文部科学省
白血球細胞の恒常的活性化シグナルとチェックポイント機構に対する統合的分子標的療法	三浦 修	血液内科学	2,080	補 日本学術振興会
生活習慣病等の重症化予防のための栄養管理の標準化に関する研究	下門 顕太郎	血流制御内科学	17800	補 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
生体内観察システムによる心血管疾患における白血球遊走過程の解明	萩田 澄彦	血流制御内科学	700	補 日本学術振興会
敗血症性ショックにおけるアディポネクチンの役割と治療法の検討	原口 剛	循環器内科	910	補 文部科学省
肝幹細胞移植による肝再構築機構の解析	東 正新	消化器内科	1,950	補 日本学術振興会
CEACAM1による腸管粘膜IL-7ネットワーク調節機構の解明	永石 宇司	消化器内科	910	補 日本学術振興会
免疫抑制性CD4+CD25+T細胞腸管局所移入療法の確立	戸塚 輝治	消化器内科	2,470	補 日本学術振興会
NKT細胞を標的とした潰瘍性大腸炎新規治療法の開発	長堀 正和	消化器内科	2,470	補 日本学術振興会
シグナルクロストークによるHath1制御とパネート細胞形質発現機構	土屋 輝一郎	消化器内科	2,210	補 文部科学省
HCV蛋白とインターフェロン系との相互作用のFRET/BRET解析	藤田 めぐみ	消化器病態学	2,080	補 日本学術振興会
炎症性腸疾患における骨髄IL-7による病原性メモリーT細胞維持機構の解明	根本 泰宏	消化器病態学	1,820	補 日本学術振興会
特定難治性疾患患者の回腸・大腸生検組織バンク構築	渡辺 守	消化器病態学	13000	補 厚生労働省
小腸生検検体大規模解析による特定難治性疾患病態理解に関する研究	渡辺 守	消化器病態学	5000	補 厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	渡辺 守	消化器病態学	65000	補 厚生労働省
難治性腸管吸収機能障害に関する調査研究	渡辺 守	消化器病態学	5000	補 厚生労働省
腸管炎症における上皮分化障害分子機構と粘膜再生誘導解析	渡辺 守	消化器病態学	14,430	補 日本学術振興会
大腸上皮におけるWnt/Notchシグナルクロストーク機構の解明	鈴木 伸治	消化器病態学	2,860	補 日本学術振興会
不全心機能改善を目的としたAAV9-D1NLS/CDK4による心筋細胞増殖誘導	宮城 直人	心臓・肺外科	1,950	補 文部科学省
肺がんにおけるカルボキシペプチダーゼMの発現と予後の研究	藤原 直之	心肺機能外科学	650	補 文部科学省
変異遺伝子特異的な新規RNA干渉法の実用化を目指したin vivo投与での検討	久保寺 隆行	神経内科	2,080	補 文部科学省
制御性T細胞誘導による脳梗塞に対する神経再生治療法開発の基礎的研究	石橋 哲	神経内科	2,990	補 文部科学省
RNA異常に着目した新しい脊髄小脳変性症SCA31の分子病態解明	石川 欽也	神経内科	156	補 日本学術振興会
水輸送を担うアクアポリン水チャネルの機能と制御機構	佐々木 成	腎臓内科学	69,160	補 日本学術振興会
上臈胞腎におけるWNKキナーゼを介した高血圧メカニズム	蘇原 映誠	腎臓内科学	1,560	補 日本学術振興会
疾患起因性変異蛋白の解析による腎臓の水・電解質トランスポートソームの解明	内田 信一	腎臓内科学	13,300	補 文部科学省
腎臓膜輸送体を制御する新規細胞内刺激伝達系の解明	内田 信一	腎臓内科学	9,360	補 日本学術振興会
水チャネル輸送機構を標的とした腎性尿崩症の治療法開発	野田 裕美	腎臓内科学	1,950	補 日本学術振興会
Runx1による軟骨初期分化調節の分子機構の解明と軟骨再生医療への応用	神野 哲也	整形外科	1,170	補 日本学術振興会
メタボリックシンドロームに伴う関節軟骨変性の分子機構解析	加藤 剛	整形外科	1,430	補 日本学術振興会
関節軟骨細胞に発現する破骨細胞分化制御因子の機能に関する研究	古賀 大介	整形外科	1,560	補 日本学術振興会
3次元磁界測定により神経細胞内・細胞外電流を評価し、神経障害の病態を解明する	友利 正樹	整形外科	1,000	補 日本学術振興会
骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法の開発	四宮 謙一	整形外科	30000	補 厚生労働省
SQUID磁束計を用いた脊髄機能診断法の臨床応用	川端 茂徳	整形外科	1,430	補 日本学術振興会
遺伝子導入による神経端側吻合の臨床応用に向けた末梢神経側枝発芽促進に関する研究	四宮 謙一	整形外科	1,200	補 日本学術振興会
骨髄間葉系幹細胞を利用した巨大骨組織再生のための基礎技術の確立	四宮 謙一	整形外科	5,720	補 日本学術振興会

小計33件



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
靱帯骨化症の分子基盤—Runx3遺伝子欠損マウスを用いた検討	阿江 啓介	整形外科学	1,430	補 日本学術振興会
末梢神経損傷に対する低分子Gタンパク質発現制御を標的とした遺伝子治療法の確立	若林 良明	整形外科学	1,170	補 日本学術振興会
危険因子分析法(HAZOP)に基づいた医療安全演習ソフトウェアの開発	大川 淳	整形外科学	1,170	補 日本学術振興会
軟骨細胞分化の分子基盤—Runx1遺伝子組織特異的欠損マウスの作製	木村 文子	整形外科学	1,200	補 日本学術振興会
精子受精能と細胞内情報伝達系についての研究	久保田 俊郎	生殖機能協働学	650	補 日本学術振興会
動物実験用MRIを用いた、妊産婦脳血管障害の病態解析および治療法の検討	宮坂 尚幸	生殖機能協働学	2,860	補 日本学術振興会
海馬におけるストレス応答機構に関する分子生物学的研究	車地 暁生	精神行動医科学	1,690	補 日本学術振興会
グルタミン酸受容体機能制御による統合失調症の新規治療法開発に関する研究	西川 徹	精神行動医科学	7,670	補 日本学術振興会
統合失調症の分子病態の解明	西川 徹	精神行動医科学	20,700	補 文部科学省
ブランクアッセイ法を応用した細胞障害性HCV株のクローン化と機能解析	大岡 真也	総合診療部	2,080	補 日本学術振興会
エタノール摂取呼吸による頭頸部発がんスクリーニング検査法の開発に関する研究	林 智誠	頭頸部外科	272	補 文部科学省
高磁場MRIを用いた脳梗塞に対する新たな血栓溶解療法の効果に関する基礎的研究	田中 洋次	脳神経外科	1,417	補 日本学術振興会
PET膜輸送担体機能定量法に基づいた悪性脳腫瘍のターゲット療法の開発	成相 直	脳神経外科	845	補 日本学術振興会
MRI陰性PET陽性海馬を有する側頭葉てんかんの疾患概念確立と治療の研究	前原 健寿	脳神経外科	2,340	補 日本学術振興会
皮質基底核変性症(CBD)の生体試料等の収集体制整備に関する研究	水澤 英洋	脳神経病態学	5000	補 厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	水澤 英洋	脳神経病態学	165000	補 厚生労働省
神経・筋疾患のRNAを用いた画期的治療法の開発	水澤 英洋	脳神経病態学	31200	補 厚生労働省
脊髄小脳失調症6型および31型の分子病態に基づく治療法開発研究	水澤 英洋	脳神経病態学	22,620	補 日本学術振興会
内因性ベクターを用いた中枢神経系への新規siRNAデリバリー方法の開発	横田 隆徳	脳神経病態学	3,800	補 文部科学省
脊髄小脳変性症6型(SCA6)の発症機序の解明及び治療法の開発	海野 敏紀	脳神経病態学	700	補 日本学術振興会
毛細血管拡張性小脳失調症の実態調査、早期診断法確立と、病態評価に関する研究	水谷 修紀	発生発達病態学	26000	補 厚生労働省
アレルギー分類不能型免疫不全症の実態把握、亜群特定に基づく診断基準策定及び病態解明に関する研究	森尾 友宏	発生発達病態学	13000	補 厚生労働省
再生医療・細胞医療製剤に汎用可能な新規微量高感度品質管理・安全性検証システムの開発と製剤の規格化に関する研究	森尾 友宏	発生発達病態学	31228	補 厚生労働省
先天性免疫不全症における自己免疫疾患・悪性腫瘍の発生・成立機序の解析	森尾 友宏	発生発達病態学	1,300	補 日本学術振興会
治療抵抗性GVHDの機序解明と治療法の探索	長澤 正之	発生発達病態学	1,300	補 日本学術振興会
浸潤性膀胱癌に対する化学放射線療法治療効果予測モデル作成	吉田 宗一郎	泌尿器科	780	補 文部科学省
Xp11転座腎癌の悪性度を規定する分子機序の解析及び疾患特異的分子標的治療の確立	駒井 好信	泌尿器科	2,730	補 文部科学省
膀胱癌の浸潤能および化学放射線治療抵抗性獲得におけるp63蛋白の役割の解析	古賀 文隆	泌尿器科	3,640	補 文部科学省
サバイビン-Hsp90複合体阻害剤による膀胱癌治療モデルの確立	矢野 晶大	泌尿器科	2,600	補 文部科学省
RNA干渉を利用したアトピー性皮膚炎の新規遺伝子治療法開発	井川 健	皮膚科	1,690	補 文部科学省
好塩基球を標的としたアトピー性皮膚炎の新治療の試み	高山 かおる	皮膚科	1,170	補 文部科学省
特異性局所多汗症の疫学調査、脳血流シンチの解析による病態解析及び治療指針の確立	横関 博雄	皮膚科学	10000	補 厚生労働省
難治性慢性痒疹・皮膚そう痒症の病態解析及び診断基準・治療指針の確立	横関 博雄	皮膚科学	20000	補 厚生労働省

小計33件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
siRNAを用いSTAT6を標的とした皮膚アレルギー疾患の遺伝子療法	横関 博雄	皮膚科学	650	補 日本学術振興会
新しい多発性筋炎モデルマウスを用いた至適抗サイトカイン療法の開発	沖山 奈緒子	皮膚科学	600	補 日本学術振興会
慢性アレルギー疾患における好塩基球の解析とその応用	向井 香織	皮膚科学	800	補 日本学術振興会
血管肉腫に対するウイルスベクターを用いた新治療の試み	西澤 綾	皮膚科学	1,560	補 文部科学省
遺伝子改変マウスES細胞由来の樹状細胞による免疫制御療法の開発	平田 真哉	膠原病・ リウマチ内科学	1,820	補 文部科学省
膠原病の生命予後規定因子である肺合併症の診断及び治療法の再評価と新規開発に関する研究	宮坂 信之	膠原病・ リウマチ内科学	36000	補 厚生労働省
関節リウマチの病態におけるmicroRNAの役割の解明と治療応用の検討	溝口 史高	膠原病・ リウマチ内科学	2,470	補 文部科学省
新しいメカニズムによる次世代抗リウマチ療法の開発	上阪 等	膠原病・ リウマチ内科学	18,720	補 日本学術振興会
自然免疫および破骨細胞分化に及ぼすCDK4/6の新規機能の解析	村上 洋介	膠原病・ リウマチ内科学	2,080	補 文部科学省

小計9件

合計107件

(注)

1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Endocr J 2009;56:579-584	Differential expression of somatostatin and dopamine receptor subtype genes in adrenocorticotropic (ACTH)-secreting pituitary tumors and silent corticotroph adenomas	Tateno T	内分泌・代謝内科
Ther Apher Dial. 13:42-8, 2009	Effect of sevelamer hydrochloride on bone in experimental uremic rats	Kuwahara M	腎臓内科
Hum. Mol. Genet. 18:3978-86, 2009	Targeted disruption of the Wnk4 gene decreases phosphorylation of Na-Cl cotransporter, increases Na excretion and lowers blood pressure	Ohta A	腎臓内科
Cell Physiol. 297:1368-78, 2009	Am. J. Physiol	Ohta E	腎臓内科
Transplant Proc. 41:395-397, 2009	Matrix metalloproteinase suppression induced by ciarithromycin in murine cardiac allografts	Ogawa M, Suzuki J, Takayama K, Isobe M	循環器内科
Circ J 73:468-475, 2009 (Mar)	Influence of autonomic stimulation on the genesis of atrial fibrillation in remodeled canine atria is not the same as that in normal atria	Furukawa T, Hirao K, Isobe M	循環器内科
Circ J 73: 1160-1162, 2009	Adenosine triphosphate exposes dormant pulmonary vein conduction responsible for recurrent atrial tachyarrhythmias: The importance of evaluating the dormant conduction during the re-do ablation procedure	Miyazaki S, Kuwahara T, Kobori A, Takahashi Y, Takahashi A	循環器内科
J Gene Med 11: 89-91, 2009(Jan)	An initial case of suppressed restenosis with nuclear factor-kappa B decoy transfection after percutaneous coronary intervention	Suzuki J, Tezuka D, Morishita R, Isobe M	循環器内科
J Mol Cell Cardiol 46:717-727, 2009(May)	Attenuation of experimental autoimmune myocarditis by blocking T cell activation through 4-1BB pathway	Haga T, Suzuki J, Kosuge H, Ogawa M, Saito H, Haraguchi G, Maejima Y, Isobe M, Ueda T	循環器内科
Transplantation 87: 1645-1653, 2009(Jun)	The Mechanism of Anti-Inflammatory Effects of Prostaglandin E2 Receptor 4 Activation in Murine Cardiac Transplantation	Ogawa M, Suzuki J, Isobe M	循環器内科
Expert Opin Ther Targets. 13: 505-511, 2009 (May)	A critical role of COX-2 in the progression of neointimal formation after wire injury in mice	Ogawa M, Suzuki J, Hirata Y, Nagai R, Isobe M	循環器内科
Circulation Cardiovasc Intervent 2: 444-454, 2009	Clinical Significance of Echo Signal Attenuation on Intravascular Ultrasound in Patients With Coronary Artery Disease	Kimura S, Kakuta T, Yonetsu T, Suzuki A, Jessaka Y, Fujiwara H, Isobe M	循環器内科
Circ J 73: 109-119, 2009	Inhibition of endostatin deteriorates left ventricular remodeling and heart failure through matrix proteinases and angiotensin converting enzyme in rat myocardial infarction	Isobe K, Kuba K, Maejima Y, Suzuki J, Kubota S, Isobe M	循環器内科
J Gastroenterol Hepatol. 24(5): 770-775, 2009	Single-operator double-balloon endoscopy (DBE) is as effective as dual-operator DBE	Araki A	消化器内科
Hepatology, 50(6):1727-1737, 2009	Antiviral effects of the interferon-induced protein GBP-1 and its interaction with the hepatitis C virus NS5B protein	Itsui Y	消化器内科
J Gastroenterol(in press), 2009	Comparison of HCV-associated gene expression and cell signaling pathways in cells with or without HCV replicon-cured cells	Nishimura-Sakurai Y	消化器内科
Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 2009;106(42):17882-5.	Immunologically silent cancer clone transmission from mother to offspring	Isoda T	小児科
J. Immunol. 2009;182:5515-27	Impaired CD4 and CD8 effector function and decreased memory T-cell populations in ICOS deficient patients	Takahashi N	小児科
Leukemia. 2009;23: 409-14	Rapid diagnosis of ataxia-telangiectasia by flow cytometric monitoring of DNA damage-dependent ATM phosphorylation	Honda M	小児科
Journal of Experimental Medicine. 2009;206(6):1291-301	Molecular explanation for the contradiction between systemic Th17 defect and localized bacterial infection in hyper-IgE syndrome	Minegishi Y	小児科
Immunology. 2009;127(4):489-99	Enhancement of T-cell-mediated anti-tumour immunity via the ectopically expressed glucocorticoid-induced tumour necrosis factor receptor-related receptor ligand (GITRL) on tumours	Piao J	小児科
J Biol Chem 2009; 284(16):10593-600	ANA deficiency enhances bone morphogenetic protein-induced ectopic bone formation via transcriptional events	Miyai K	小児科
Pediatr Nephrol 2009 ; 24 : 1321-28	Ito S, Nozu K, Fujinaga S, Nakayama M, Sako M, Saito M, Yoneko M, Iijima K. Single dose of rituximab for refractory steroid-dependent nephrotic syndrome in children	Kamei K	小児科
Psychiatry Research 168: 57-66, 2009	Coping strategies and their correlates with depression in the Japanese general population	Nagase Y	精神科
Int J Neuropsychopharmacol 12: 1111-1126, 2009	Developmentally-regulated and thalamus-selective induction of leiomodin 2 gene by a schizophrenomimetic, phencyclidine, in the rat	Takebayashi H, Nishikawa T	精神科
Cereb Cortex 19:1158-1166, 2009	REM sleep, prefrontal theta, and the consolidation of human emotional memory	Nishida M	精神科
Bipolar Disorders 11:711-725, 2009	Vesicular glutamate transporter mRNA expression in the medial temporal lobe in major depressive disorder, bipolar disorder, and schizophrenia	Uezato A	精神科
精神科 15: 381-386, 2009	Lithiumの併用投与がECT治療後の寛解状態の維持に著効した高齢発症の精神病患者を伴う重症うつ病の2症例	石川 洋世	精神科
臨床精神医学 38:1153-1158, 2009	東京医科歯科大学医学部附属病院におけるコンサルテーション・リエゾン活動	竹内 崇	精神科
精神医学 51: 521-531, 2009	手段の生命的危険度による自殺関連行動患者の分析	佐々木健至	精神科
Surg Today.39: 2009:658-62	Efficacy of the transfer function index using the pulse volume recording as a parameter to assess intermittent claudication	Inoue Y	外科
Dis Eso 2009; 22: 505-512	Endoscopic observation for esophageal squamous cell carcinoma: Can biopsy histology be omitted?	Kawano T	外科
British Journal of Cancer. 2009;100:782-788	Relation between outcomes and localisation of p-mTOR expression in gastric cancer	Murayama T	外科
International Journal of Cancer. 2009;124:2677-2682	DNA methylation status is inversely correlated with green tea intake and physical activity in gastric cancer patients	Yuasa Y	外科
Can biopsy histology omitted? Dis Esoph, 2009;22:505-512 (DOI: 10.1111/j. 1442-	Endoscopic observation for esophageal squamous cell carcinoma	Kawano T	外科
Dig Surg 2009;26:200-204 (DOI: 10.1159/000217799)	Subcutaneous reconstruction using ileo-colon with preserved ileo-colic vessels following esophagectomy or in esophageal bypass operation	Kawano T	外科
Hepato-Gastroenterology 2008; 55: 1631-1635	A pilot trial of docetaxel and nedaplatin in cisplatin-pretreated relapsed or refractory esophageal squamous cell cancer	Nakajima Y	外科
J Clin Oncol.27 (6): 999-1000, 2009	Why does levator ani nerve damage occur during rectal surgery?	Sugihara K	大腸・肛門外科
Br J Cancer 100(5): 782-788, 2009	Relation between outcomes and localisation of p-mTOR expression in gastric cancer	Inokuchi M	大腸・肛門外科
Int J Oncol. 34 (4): 1147-53, 2009	Messenger RNA Expression of Cox-2 and Angiogenic Factors in Primary Colorectal Cancer and Corresponding Liver Metastasis	Kobayashi H	大腸・肛門外科
Dis Colon Rectum 52 (4): 567-76, 2009	Outcomes of surgery alone for lower rectal cancer with and without pelvic sidewall dissection	Kobayashi H	大腸・肛門外科
Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2009 Apr; 44(4):341-348	The Tachikawa cohort of motor vehicle accident study investigating psychological distress: design, methods and cohort profiles	Otomo Y	ERセンター
日本救急医学会雑誌 2009;20:349-60	本邦における救急医療システムの多様性とその問題点に関する考察-北米ER型システムとの比較から-	大友康裕	ERセンター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床救急医学会雑誌 2009;12: 543-547	急性薬物中毒患者の重症度判定と病院前トリアージ案の検討	大友 康裕	ERセンター
日本救急医学会雑誌 2009;20:317-24	In situ hybridization法にて確定したEBウイルス感染による特発性脾臓破裂の1例	庄古知久	ERセンター
Appl Radiat Isot. 67: S348-50. 2009	PET pharmacokinetic analysis to estimate boron concentration in tumor and brain as a guide to plan BNCT for malignant cerebral glioma	Nariai T	脳神経外科
J Neurosurg 110:163-172, 2009	Glioma surgery using a multimodal navigation system with integrated metabolic images	Tanaka Y	脳神経外科
脳神経外科 37: 159-166, 2009	転移性脳腫瘍患者における全身FDG-PET/CTの有用性	仲川 和彦	脳神経外科
A pilot study in adults. Br J Dermatol. 160(5):1124-6, 2009	A therapeutic effect of STAT6 decoy oligonucleotides ointment in atopic dermatitis	Igawa K, Satoh T, Yokozeki H	皮膚科
Journal of Leukocyte Biology. 86(6):1417-25, 2009	Basophils preferentially express mouse mast cell protease 11 among the mast cell tryptase family in contrast to mast cells	Ugajin T, Kojima T, Mukai K, Obata K, Kawano Y, Eishi Y, Yokozeki H, Karasuyama H	皮膚科
Arthritis and Rheumatism, 60(8):2505-12, 2009	Therapeutic effects of IL-6 blockade on a murine model of polymyositis that does not require IL-17A	Okiyama N, Sugihara T, Iwakura Y, Yokozeki H, Miyasaka N, Kohsaka H	皮膚科
Acta Derm Venereol (in press)	Indomethacin-induced reduction of CRTH2 in eosinophilic pustular folliculitis (Ofuji's disease): A proposed mechanism of action	Satoh T, Shimura C, Miyagishi C, Yokozeki H	皮膚科
Am J Pathol (in press)	Human dendritic cells express hematopoietic prostaglandin D synthase and function as a source of prostaglandin D2 in the skin	Shimura C, Satoh T, Igawa K, Aritake K, Urado Y, Nakamura M, Yokozeki H	皮膚科
Clin Immunol. 132(2):184-94, 2009	Stable form of galectin-9, a Tim-3 ligand, inhibits contact hypersensitivity and psoriatic reactions: a potent therapeutic tool for Th1- and/or Th17-mediated skin inflammation	Niwa H, Satoh T, Matsushima Y, Hosoya K, Saeki K, Niki T, Hirashima	皮膚科
J Eur Acad Dermatol Venereol (Epub ahead of print)	Increased expression of CRTH2 on eosinophils in allergic skin diseases.	Yahara H, Satoh T, Miyagishi C, Yokozeki H	皮膚科
The TNM-C score. J Urol. 181: 1004-1012, 2009	Development and external validation of a new outcome prediction model for patients with clear cell renal cell carcinoma treated with nephrectomy based on preoperative serum C-reactive protein and TNM classification	Saito K	泌尿器科
A nation-wide survey in Japan in 2005. Int J Urol, 16: 2, 2009	Surgical practices for urological tumors	Kihara K	泌尿器科
BJU Int. 103: 620-4, 2009	Radiotherapy to bone metastases from renal cell carcinoma with or without zoledronate	Fujii Y	泌尿器科
BJU Int. 104: 189-194, 2009	Favourable outcomes of clinical stage T3N0M0 bladder cancer patients treated with induction low-dose chemoradiotherapy plus partial or radical cystectomy versus immediate radical cystectomy: a single-institutional retrospective comparative study	Koga F	泌尿器科
Int J Urol. 16(4):420-423, 2009	Simple and effective local anesthesia for transperineal extended prostate biopsy: Application to the three-dimensional 26-core biopsy	Kubo Y, Kawakami S, Numao N, Takazawa R, Fujii Y, Masuda H, Tsujii T, Kihara K	泌尿器科
Eur Urol. 55:1145-53, 2009	Impact of C-reactive Protein Kinetics on Survival of Patients With Metastatic Renal Cell Carcinoma	Saito K	泌尿器科
Int J Urol. 16: 848-851, 2009	Simple prophylactic procedure of inguinal hernia after radical retropubic prostatectomy: Isolation of the spermatic cord	Sakai Y	泌尿器科
Int J Urol. 16: 930-935, 2009	Safety of transperineal 14-core systematic prostate biopsy in diabetic men	Kawakami S	泌尿器科
Int J Urol. 16: 61-63, 2009	Discarding antimicrobial prophylaxis for transurethral resection of bladder tumor: A feasibility study	Fujii Y	泌尿器科
Acta Otolaryngol Aug.14,2009 (Epub ahead of print)	Quantitative cellular level analysis of mitochondrial DNA 3243A>G mutations in individual tissues from the archival temporal bones of a MELAS patient	Kitamura K	耳鼻咽喉科
Laryngoscope 119:1874-9, 2009	Vestibular evoked myogenic potentials in patients with the mitochondrial A1555G mutation	Noguchi Y	耳鼻咽喉科
耳展 52(5):346-50, 2009	顔面線維性骨異形成症手術におけるナビゲーションシステムの応用	高橋直人	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol 129:1524-6,2009	Commercially available high-speed system for recording and monitoring vocal fold vibrations	Tsunoda A	耳鼻咽喉科
Mol Hum Reprod 2009;15(8):507-512	Regulation of myometrial contractility during pregnancy in the rat: potential role for DDAH	Obayashi S	周産・女性診療科
Cell Metab 2009;10(3):229-240	T lymphocytes amplify the anabolic activity of parathyroid hormone through Wnt10b signaling	Terauchi M	周産・女性診療科
Clin Psychol (in press.)	Insomnia in Japanese peri- and postmenopausal women	Terauchi M	周産・女性診療科
日本磁気共鳴医学会雑誌 29:37-39, 2009	BO mappingを用いた自動shimming法の開発とマウス脳1H MR spectroscopic imagingへの応用	宮坂尚幸	周産・女性診療科
Int J Radiat Biol Phys 73: 772-778, 2009	Quality of life of oral cancer patients after low-dose-rate interstitial brachytherapy	Yoshimura R	放射線科
Ophthalmologica. 2009;223(2):96-101	Electron therapy for orbital and periorbital lesions using customized lead eye shields	Hayashi K	放射線科
Psychiatry Clin Neurosci 63 147-152, 2009	Psychological features and coping styles in patients with chronic pain	Oui JA, Matsushima E, Aso K, Masuda A, Makita K	麻酔・ペインクリニック科
Anesth Analg 108: 1631-1637, 2009	Phenylephrine ameliorates cerebral cytotoxic edema and reduces cerebral infarction volume in a rat model of complete unilateral carotid artery occlusion with severe hypotension	Ishikawa S, Ito H, Yokoyama K, Makita K	麻酔・ペインクリニック科
J Neuro Ophthalmol. 2009; 29: 72-73	Opsoconus caused by diphenhydramine self-poisoning	Irioka T, Yamanami A, Uchida N, Iwase M, Yasuhara H, Mizusawa H	神経内科
Neurol Sci 2009; 30: 255-258	Aortic dissection as a possible cause of pure transient global amnesia: a case report and literature review	Irioka T, Yamanami A, Yagi Y, Mizusawa H	神経内科
Acta Neuropathol 2009 [Epub]2009.12.31	The carboxy-terminal fragment of $\alpha_{1A}$ -calcium channel preferentially aggregates in the cytoplasm of human spinocerebellar ataxia type 6 Purkinje cells	Ishiguro T, Ishikawa K, Takahashi M, Obayashi M, Amino T, Sato N, Sakamoto M, Fujigasaki H, Tsuruta F, Dolmetsch R, Arai T, Sasaki H, Nagashima K, Kato T, Yamada M, Takahashi H, Hashizume Y, Mizusawa H	神経内科
J Neurol Sci 2009; 285: 241-245	Intractable hiccup caused by medulla oblongata lesions in a patient with autopsy-proven neuromyelitis optica	Kobayashi Z, Tsuchiya K, Uchiyama T, Nakamura A, Haga C, Yokota O, Ishizu H, Taki K, Arai T, Akiyama H, Mizusawa H	神経内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neuropathology 2009 in press	Morel's laminar sclerosis showing apraxia of speech: Distribution of cortical lesions in an autopsy case	Kobayashi Z, Tsuchiya K, Takahashi M, Yokota O, Taki K, Ishizu H, Arai T, Akiyama H, Mizusawa H	神経内科
J Neurol Sci 2009; 277: 109-113	Metastatic CNS lymphoma presenting with periventricular dissemination-- an autopsy case with an unusual MRI	Kobayashi Z, Tsuchiya K, Machida A, Goto J, Miake H, Watabiki S, Taki K, Haga C, Yokota O, Arai T, Akiyama H, Mizusawa H	神経内科
J Neurosci Res 2009; 87: 1270-1281	Intensity of chronic cerebral hypoperfusion determines white/gray matter injury and cognitive/motor dysfunction in mice	Miki K, Ishibashi S, Sun L, Xu H, Ohashi W, Kuroiwa T, Mizusawa H	神経内科
Intern Med 2009; 48: 209-212	Skeletal Muscle MRI in Complex Regional Pain Syndrome	Nishida Y, Saito Y, Yokota T, Kanda T, Mizusawa H	神経内科
J Biol Chem 2009; 284: 33400-33408	Depletion of vitamin E increases amyloid $\beta$ accumulation by decreasing its clearances from brain and blood in a mouse model of Alzheimer disease	Nishida Y, Ito S, Ohtsuki S, Yamamoto N, Takahashi T, Iwata N, Jishage K, Yamada H, Sasaguri H, Yokota S, Piao W, Tomimitsu H, Saïdo TC, Yanagisawa K, Terasaki T, Mizusawa H, Yokota T	神経内科
FEBS Lett 2009; 583: 213-218	Silencing efficiency differs among tissues and endogenous microRNA pathway is preserved in short hairpin RNA transgenic mice	Sasaguri H, Mitani T, Anzai M, Kuboëra T, Saito Y, Yamada H, Mizusawa H, Yokota T	神経内科
Am J Hum Genet 2009; 85: 1-14	Spinocerebellar ataxia type 31 is associated with "inserted" penta-nucleotide repeats containing (TGGA) <sub>n</sub>	Sato N, Amino T, Kobayashi K, Asakawa S, Ishiguro T, Tsunemi T, Takahashi M, Matsuura T, Flanigan KM, Iwasaki S, Ishino F, Saito Y, Murayama S, Yoshida M, Hashizume Y, Takahashi Y, Tsuji S, Shimizu N, Toda T, Ishikawa K, Mizusawa H	神経内科
Neuropathology 2009; 29: 45-54	Two region-dependent pathways of eosinophilic neuronal death after transient cerebral ischemia	Sun L, Kuroiwa T, Ishibashi S, Miki K, Li S, Xu H, Endo S, Mizusawa H	神経内科
J Neurol 2009; 256: 1943-1946	(18)F-FDG PET successfully detects spinal cord sarcoidosis	Ota K, Tsunemi T, Saito K, Yamanami F, Watanabe M, Irioka T, Mizusawa H	神経内科
臨床神経学 2009; 49: 432-436	左三叉神経障害にて発症したと思われる悪性リンパ腫の1例	赤座実穂, 常深泰司, 三條伸夫, 臨本浩明, 小林大輔, 水澤英洋	神経内科
臨床神経学 2009; 49: 907-909	脊髄小脳変性症への分子遺伝学的アプローチ	石川欽也, 石黒太郎, 高橋 真, 佐藤 望, 網野猛志, 新美祐介, 水澤英洋	神経内科
In Vitro and Initial In Vivo Evaluation Artificial Organs 3(9): 704-713 Ann Surg 63: 167-170, 2009	Development of a Disposable Maglev Centrifugal Blood Pump Intended for One-Month Support in Bridge-to-Bridge Applications Expanded narrow subcutaneous-pedicled island forehead flap for reconstruction of the forehead	Takeshi Someya Okazaki M	心臓血管外科 形成・美容外科
日頭額顔会誌25(1):66-74,2008	両側dismasking flapアプローチにおける前方蓋pericranial flapを用いた前頭蓋底再建の経験	岸本誠司	頭頸部外科
Auris Nasus Larynx 36:567-570,2009	Partial maxillary swing approach for removal of the tumors in the retromaxillary area	S Kishimoto	頭頸部外科
耳展52(5):346-350,2009	頭面骨線維性骨異形成症手術におけるナビゲーションシステムの応用	岸本誠司	頭頸部外科
J Med Dent Sci. 2009 Mar;56(1):69-77	The effect of preoperative lateral flexibility of the lumbar spine on perceived leg length discrepancy after total hip arthroplasty	Koga D	リハビリテーション部
J orthopaedic science 14: 161-166, 2009	Postoperative hip motion and functional recovery after simultaneous bilateral total hip arthroplasty for bilateral osteoarthritis	Yoshii T	リハビリテーション部
理学療法 進歩と展望23:24-27, 2009	人工股関節置換術後短期プログラムにおける自覚的脚長差の変化について一術直後と退院時の自覚的脚長差に着目して	小川英臣	リハビリテーション部
Shock 32:478-483, 2009	A longer duration of polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion improves pulmonary oxygenation in patients with septic shock	Mitaka C	集中治療部
Am J Clin Pathol 131(3):405-15,2009	Histopathologic analysis of sixteen autopsy cases of chronic hypersensitivity pneumonitis and comparison with idiopathicpulmonary fibrosis/usual interstitial pneumonia	Akashi T, Takemura T, Ando N, Eishi Y, Kitagawa M, Takizawa T, Koike M, Ohtani Y, Miyazaki Y, Inase N, Yoshizawa Y	病理部
Oral Medicine. 13:55-63, 2009	Immunohistochemical Characteristics of Odontogenic Carcinomas. Their Use in Diagnosing and elucidating histogenesis	Shigeo K, Eisaku I, Akira Y, Yosinobu E, Norihiko O	病理部
Dis Esophagus. 2008. Nov 9. [Epub ahead of print]	Independent histological risk factors for lymphnode metastasis of superficial esophageal squamous cell carcinoma; implication ofclaudin-5 immunohistochemistry for expanding the indications of endoscopicresection	Chiba T, Kawachi H, Kawano T, Kumagai J, Kitagaki K, Sekine M, Uchida K, Kobayashi M, Sugihara K, Eishi Y	病理部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Microb Pathog 46(2):60-7,2009	Characterization of Propionibacterium acnes isolates from sarcoid and non-sarcoid tissues with special reference to cell invasiveness, serotype, and trigger factor gene polymorphism	Furukawa A, Uchida K, Ishige Y, Ishige I, Kobayashi I, Takemura T, Yokoyama T, Iwai K, Watanabe K, Shimizu S, Ishida N, Suzuki Y, Suzuki T, Yamada T, Ito T, Eishi Y	病理部
J Med Dent Sci 56:25-35, 2009	Relationship between mucin expression of gastric intramucosal signet ring cell carcinoma and its background mucosa	Seki T, Ito T, Kawachi H, Sekine M, Funata N, Takizawa T	病理部
日本ヘリコバクター学会誌10(2):45-52,2009	ピロリ菌の胃粘膜固有層への侵入と胃所属リンパ節への移入	伊藤崇, 小林寅哲, 村岡宏江, 江石義徳	病理部
Hum. Mol. Genet. 18:3978-86, 2009	Targeted disruption of the Wnk4 gene decreases phosphorylation of Na-Cl cotransporter, increases Na excretion and lowers blood pressure	Ohta A	血液浄化療法部
Am. J. Physiol. Cell Physiol. 297:1368-78, 2009	Pancreas-specific aquaporin 12 null mice showed increased susceptibility to caerulein-induced acute pancreatitis	Ohta E	血液浄化療法部
Clin. Exp. Nephrol. 13: 533, 2009	Preface: evidence-based practice guideline for the treatment of chronic kidney disease	Sasaki S	血液浄化療法部
Am. J. Physiol. Cell Physiol. 297:1389-1396, 2009	FAPP2 is required for aquaporin-2 apical sorting at trans-Golgi network in polarized MDCK cells	Rai T	血液浄化療法部
臨床血液50:pp295-299, 2009	腎障害を有する日本人多発性骨髄腫患者のサリドマイド血中濃度の解析	佐々木成	血液浄化療法部

小計8件

合計 111 件

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## (様式第12)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 坂本 徹
管理担当者氏名	(総務課長) 石橋 秀昭 (管理課長) 菅瀬 真生 (医事課長) 三上 隆美

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 ①処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 ②病院日誌、各科診療日誌 ③エックス線写真		① 病歴管理室 ② 総務課 ③ 各診療科	[入院カルテ] 入院中は当該病棟で管理し退院後は病歴管理室で一括管理している。 [外来カルテ] 病歴管理室で一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
①入院患者数、外来患者 ②調剤の数を明らかにする帳簿	① 医事課 ② 薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十の確項各号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理対策室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理対策室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者相談室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	安全管理対策室
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	安全管理対策室
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	安全管理対策室
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	安全管理対策室
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	安全管理対策室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	安全管理対策室
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	安全管理対策室
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	安全管理対策室		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	(医学部事務部長) 加藤 健
閲覧担当者氏名	(総務課長) 石橋 秀昭
閲覧の求めに応じる場所	病院 1 階会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	70.3%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		16,405人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		7,805人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		6,466人
	D: 初診の患者の数		35,795人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○インフォームドコンセントを徹底した患者本位の全人的医療，安全な医療の提供を行う。</li><li>○医療現場でのインシデント報告を通しての検証及び事故防止対策を策定・実施する。</li><li>○医療における基本の徹底と質の向上を図る。</li><li>○上記の目的を実施するため，次の機構を組織</li></ul> <p>(1) 安全管理委員会…本院における医療事故防止に関する方策の検討・実施，各種マニュアルの策定及び研修等を行う。</p> <p>(2) リスクマネージャー会議…各診療科，中央診療部門の中核となる実務者で構成し，日常における安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。</p> <p>(3) 安全管理対策室…安全管理レポートの調査分析等を行うとともに，事故防止に関する適宜マニュアルの追加並びに指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○患者からの相談に対応するため，院内に患者相談室を置き，必要に応じ，関連部署との連絡調整を行い，相談内容を適切に処理する。</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年39回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○医療事故防止に関する方策の検討・実施，各種マニュアルの策定及び研修等を行う。</li><li>○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。</li><li>○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに，事故防止に関する指導を行う。</li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年33回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○医療行為関連死の調査分析モデル事業と事故調査のありかた</li><li>○インフルエンザ</li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○インシデント・アクシデント報告の内容分析</li><li>○リスクマネージャー会議でのワーキンググループ</li></ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (2) 名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 事故・インシデント等の情報収集、分析、改善。</li><li>(2) 安全管理対策の立案・調整・周知・評価。</li><li>(3) 職員への教育研修の企画、実施・マニュアルの作成。</li></ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○職員に対する研修に関する基本方針<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 感染対策の基本的考え方および具体的方策について、職員に周知徹底を図ることを目的に実施する。</li><li>(2) 就業時の初期研修のほか、全職員および職種別対象を年数回開催する。</li><li>(3) 研修の開催結果を記録。保存する。</li></ul></li><li>○感染症の発生状況の報告に関する基本指針 MRSA等の感染を防止するため、「院内感染状況報告」を週1回程度作成し、対策室にて確認・検証を行うとともに、対策チームを通じ院内への情報提供・注意喚起に活用する。検討結果は委員会にて報告され、再確認等、活用する。</li><li>○院内感染発生時の対応に関する基本方針 異常発生時は、その状況および患者様への対応を病院長に報告する。対策室にて速やかに発生に原因を究明し改善策を立案するとともに状況に応じて委員会を開催する。</li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○院内感染防止に関する検討・実施・各種マニュアルの策定および研修等を行う。</li><li>○エピネット等による針刺し事故等の報告分析と再発防止に努める。</li><li>○定期的（週1回）な院内感染状況報告と対策の協議ならびに抗菌薬使用状況等の分析を行う。</li><li>○医療現場における感染防止対策に関する取組みの評価を行う。</li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○病院全職員を対象とした院内感染及び感染症等に関する研修の実施<ul style="list-style-type: none"><li>(1) インフルエンザについて</li><li>(2) 話題の耐性菌の概要と当院の現状について</li><li>(3) 感染症アウトブレイク調査の基本ステップ</li></ul></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 定期的な医療現場の感染対策に関する環境整備の確認及び指導</li><li>(2) 感染に関するニュースレター及び各種研修資料の提供</li><li>(3) 細菌検査担当者、薬剤部担当者とともに院内感染に関する情報を共有し改善に努める</li></ul>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○抗癌剤の副作用と対策</li></ul></li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の作成 (有・無)</li><li>・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○医薬品の採用・購入</li><li>○医薬品の管理 (麻薬等の管理方法等)</li><li>○患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法</li><li>○患者に対する与薬や服薬指導</li><li>○医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い</li><li>○他施設 (病院等、薬局等) との連携</li></ul></li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○製薬会社MRからの情報収集</li><li>○医薬品安全管理ニュースの作成、配布による情報提供</li></ul></li></ul>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	④・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年13回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○人工呼吸器の安全管理</li><li>○輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作法</li><li>○酸素療法</li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 ( ④・無 )</li><li>・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○人工呼吸器、血液浄化装置、体温維持装置、人工心肺</li><li>輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動器、診療用放射線照射装置等</li></ul></li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ④・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○MEニュースの作成、配布による情報提供</li><li>○リスクマネージャー会議での周知</li></ul></li></ul>	